

(4) 家庭人としての教育専門部会

① 研究の基本的な考え方とその手順

ア 基本的な考え方

本部会では望ましい家庭人を育成するため、「家庭」のあるべき姿について検討を重ねた結果、「家庭」を次の五つの場としてとらえた。これらは、互いに関連し補完し合って機能するものである。以下それぞれの場における家庭人としての望ましい姿について述べる。

(ア) 家庭は愛の場である。

家庭は愛の絆の上に成り立っているものである。夫婦の愛、親子の愛、兄弟姉妹の愛、祖父母への愛などそれが集まって愛の場が構成されている。これらの愛は自然の情であり、強制されて湧き起こるものではない。

最近、特に過保護や過剰干渉、親子の断絶等が社会問題となっている。これらはいずれも愛情を示す親の態度や家族間のコミュニケーションの欠如などに問題があると思われる。いつまでも子離れしない親の態度の在り方、潤いのない家族関係などの改善が望まれる。

家庭は、愛の絆の中で、人間としていかに生きるべきかを学ぶことのできる理性的な場でなければならない。「お互いの立場を理解し、尊重し合い、相互扶助に立って自主的に生きていく人間」となることが大切である。

(イ) 家庭はいこいの場である。

今日のあわただしい社会生活の中において、ややもすると生活に潤いを欠き自己を見失いがちである。家族の活力は、家庭が明るく清く楽しいことによって高まるのである。

現代の社会では、余暇時間はかなり生み出されつつある。しかし、この余暇が真的生きがいを求めたり、家族の団らんの場として十分に活用されているとはいえない現状である。

家庭を自己実現の場としたり、家庭的な喜びを享受できるような場としたりしなければならない。「よりよい家庭文化の創造に目を向けて志向できる人間」となることが大切である。

(ウ) 家庭は学習の場である。

家庭は意図のない学習の場である。親の生活態度が子供を教育する最も大切な基盤である。子供を正しくしつけるとともに、親は子を育てることによって自己を育てていかなければならない。

現代の子供たちには、社会生活を営む上での基本的生活態度や、道徳的心情、判断力などの欠如があげられる。また、物が豊かになり過ぎて物を粗末にするなどの

IV 足利市の教育目標設定の実際

傾向も顕著に見られる。

これらは、親が身をもって教えるべきものであり、厳しくしつけなければならぬことでもある。

未来を背負う子供の姿として、自己を統制し、積極的に社会生活に適応していく人間を家庭生活において強調していかなければならない。

子は親の背を見て育つものである。親自身もわが身の不完全さを補い、日々成長していくような「自己練磨のできる人間」となることが大切である。

(エ) 家庭は人間関係を育てる場である。

家庭生活は、社会生活の基盤となるものである。現代の社会生活においては、奉仕の精神、地域づくりの実践等の社会的態度の欠如、家庭生活においては、核家族、老人、親子関係等の諸問題があげられる。その背景には、自己の利害得失にとらわれていることや、家庭が狭く閉ざされていることなど、家庭内における人間関係の欠如があげられる。

家庭生活の場においては、祖父母から親、親から子供へと縦社会のひな型を見ることができる。そこで、家庭生活におけるそれぞれの立場を尊重する人間関係を基盤にして、「連帯感のある人間」となることが大切である。

(オ) 家庭は宗教心を育てる場である。

現代の社会では、人や自然に感謝したり、他人を尊重したりすることに欠けている面がみられる。また、物質文明がもたらした精神的荒廃が目立つ。物質的に恵まれた現代では、心の豊かさを求めることが必要である。

家庭生活において、小さい時期から、動植物や自然を愛する心、人を尊敬する心、祖先や祖父母を尊敬する心など、人間性豊かな心を養いたいものである。「生命の根源に対する宗教心（畏敬の念）をもつ人間」となることが大切である。

イ 手 順

本部会として教育目標を設定するに当たり、次のような手順をとった。

(ア) 家庭の果たす役割及び学校教育の機能との関連

ここでは主としてハヴィガースト氏の人生各期における発達課題を参考にして、乳幼児期から高齢期に至る発達課題を吟味し、主として家庭が中心となって行われるべき項目について共通理解を図った。また人生各期の区分の仕方や、家庭人としての概念及び家庭教育と学校教育、社会教育との関連内容を調整し、家庭人としての領域をはっきりさせていく必要があることが確認された。

(イ) 家庭人としての資質を高めるための望ましい人間像や場の設定

生涯教育の立場から、望ましい家庭人としての発達課題が浮きぼりにされると、これらの発達課題を達成するための家庭人としてのべき姿（人間像）や場が話題となり数回の専門部会で話し合いをした結果、下記のような人間像と前述した「五つの場」を本部会としての柱にした。

- ・自己向上のできる人間
- ・自己の健康管理のできる人間
- ・伝統を継承し創造する人間
- ・集団の中で生きる人間
- ・現代の経済社会に生きる人間

(ウ) 第1次調査、第2次調査及び面接調査の実施

望ましい家庭人としての発達課題とこれを達成するための五つの場を基にして調査項目を作成し、足利市民の人生各期にわたる家庭教育に対する考え方や、願いを浮きぼりにしたいと考え、1次調査を実施した。そして、各項目についての重要度を調べるとともに、その結果を年齢別、性別、地域別に考察し、足利市民が重視している内容、関心の低い内容を明らかにした。

1次調査の結果、足利市民の家庭教育に対する考え方方が明らかになつたので、これに基づき、部会で各項目について実態を考察した。しかし項目の中には実態をは握することが困難な内容や、意識は高いが実態は低いと判断されるものがあるので、これらを明らかにするため2次調査を実施した。また調査に当たっては、昭和29年の「足利市教育の一般目標」や市民憲章と対比し、落ちがないようにした。

2次調査の結果、市民の実態が判断しかねる内容や、部会が考えている望ましい家庭人の在り方と市民のそれとにややひらきがあるものなどについて、専門的立場にある教育関係者から意見を聴取し、問題点を明らかにするため面接調査を実施した。

(エ) 足利市の教育課題抽出

1次調査、2次調査及び面接調査を実施した結果、乳幼児期から高齢期に至る人生各期において育てるべき人間の資質について、足利市民の意識や実態が明らかになった。これらのことと基に足利の風土に根ざした教育の課題を検討するとともに、より一般性、普遍性のあるものにするため、教育基本法や社会教育審議会答申の綱目を通し「足利市の教育課題」を抽出した。

(オ) 達成目標及び教育目標の設定

このようにして抽出された教育課題の内容を検討し、教育課題を達成するための達成目標を設定した。達成目標が明らかにされた時点で、各期における教育課題相互の関連を考え、一つの教育課題で一つの教育目標になるもの、あるいは、二つの教育課題で一つの教育目標にした方がよいものなどを検討し部会としての教育目標を設定した。

ウ 第1次調査のねらいとその内容

(ア) ねらい

足利市民のいだいている子供、両親、祖父母についての家庭教育はどうあるべきかという意識を調査した。

IV 足利市の教育目標設定の実際

したがって、前述のごとく家庭を五つの場としてとらえ、未来に生きる人間に必要な資質を想定しながら、あるべき家庭人の基本的なものが洗い出せるように配慮した。

(イ) 内 容

子供	両親	祖父母	調査項目
○			問1 幼児（入学前）の生活の中で、特に大切にしたいこと。
○			問2 幼児や小学生のしつけの中核となるべき人に関すること。
○			問3 幼児や小学生のしつけの方法に関すること。
○			問4 小学生や中学生の望ましい姿に関すること。
○			問5 子供らしい子に育てるための、親としての在り方に関すること。
○			問6 中学生や高校生を育てるとき、特に配慮すべき事柄に関すること。
○			問7 現在の高校生や青年の短所に関すること。
○			問8 子供に対して、親の職業の理解のさせ方に関するこ
	○		と。
	○		問9 子供を中心とした、家庭で行う行事に関するこ
	○		と。
	○		問10 敬老の精神に関するこ
	○		と。
	○		問11 家庭生活の中で宗教心を養うことに関するこ
	○		と。
	○		問12 余暇時間に関するこ
	○		と。
	○		問13 仕事と余暇の関係に関するこ
	○		と。
	○		問14 近所付き合いに関するこ
	○		と。
	○		問15 親子の信頼関係に関するこ
	○		と。
	○		問16 性教育に関するこ
	○		と。
	○		問17 家庭における性の問題に関するこ
	○		と。
	○		問18 現在どの程度に「生きがい」を感じているかに関するこ
	○		と。
	○		問19 「生きがい」を何に求めるかに関するこ
	○		と。
	○		問20 老人に対するイメージに関するこ
	○		と。
	○		問21 家族構成に関するこ
	○		と。
	○		問22 将来の生活に対する考え方に関するこ
	○		と。
	○		問23 老人の生活に関するこ
	○		と。

(ウ) 調査結果の概要

足利市民が重視している内容

1次調査の結果、市民が重視している主な内容をあげると次の通りである。

- ・ 幼児の生活の中で、特に身体が丈夫であること。
- ・ 子供のしつけについては両親が中心となって当たること。
- ・ 小・中学生にはものごとを最後までやりぬいてほしいこと。
- ・ 中・高校生を育てる時、特に交友関係に注意をはらうこと。
- ・ 現在の高校生にもう少し感謝の気持ちをもってほしいこと。
- ・ 家庭で行う行事については、それぞれの家にふさわしい行事をもつこと。
- ・ 神仏を敬うこと。
- ・ 敬老の精神はぜひ必要であること。
- ・ 余暇については、仕事と同時に大切にしたいこと。
- ・ 親子の信頼関係については、それほど薄れてはいないこと。
- ・ 家庭における性教育はぜひとも必要であること。
- ・ 家庭生活や仕事を通して生きがいを感じていること。
- ・ 家族構成については、核家族でない方がいいこと。
- ・ 将来の生活については、経済や健康面で不安を感じていること。
- ・ 老人の世話は、子や兄弟など親族が当たるべきであること。

エ 第2次調査のねらいとその内容

(ア) ねらい

1次調査の結果、市民の意識が高く、実態が低いと想定されるものについて、その実態を調査し、家庭人部会としての教育課題抽出の基盤とするため実施した。

(イ) 内容

番号	調査項目
1	家庭における性教育や、近所付き合い、子供のしつけの進め方、神仏を敬うことの充足度を見る。
2	親子の信頼関係や、家庭の年中行事の選択、老人の生活の在り方に対する市民の判断について充足度を見る。
3	敬老の精神について総体的に充足度を見る。
4	市民に充足されていると思われる余暇の時間が、家族ぐるみでどの程度活用されているかの充足度を見る。
5	1次調査で取り上げなかった、家庭生活における「潤い」について充足度を見る。
6	足利市の高校生や青年に必要とされる資質について意識を見る。
7	1次調査で取り上げなかった、部会での家庭生活をとらえる場についての考え方に対する判断を見る。

IV 足利市の教育目標設定の実際

(ウ) 調査結果の概要

- 2次調査の結果明らかになったこと
- 実態が低いもの（充足されていない）
家庭における性教育について、子供のしつけについて、
 - 実態が高いもの（充足されている）
近所づきあいについて、家庭で行う年中行事について、
 - どちらともいえないもの
親子の信頼関係について、敬老の精神について、宗教心について、
家族ぐるみで過ごす余暇について、老人としての生活について、
家庭生活における「潤い」について、
 - 家庭人部会が柱としてとらえた場については、全くその通りであるという市民がほとんどであった。

オ 面接調査のねらいとその内容

(ア) ねらい

家庭人部会としては、教育課題摘出のため1次調査並びに2次調査を実施し、市民の意識や実態を浮きぼりにしたわけであるが、部会が考えている望ましい家庭人の在り方と市民のそれとの間にややひらきがあるもの、あるいは再度聴取の必要な内容について、専門的な立場にある教育関係者から直接意見を聴取し、問題点を解明する。

(イ) 内容

番号	質問事項
1	家庭において性教育があまり行われていない理由
2	敬老の精神について、意識は高いが実態がよくわからない理由
3	子供のしつけについて、祖父母、両親の同一歩調がみられない理由
4	物を大切にする気持ちが失われていると思われるがその理由
5	神仏を敬う気持ちは強いようだが実際はどうか
6	本部会として設定した教育目標についての意見

(ウ) 調査結果の概要

1について

- 親自身が性教育を受けていないのでどのように指導したらよいか自信がない。
- 性は「かくすもの」という意識が強い。

2について

- 本音とたてまえが違うのではないか。
- 日本人は敬老の精神をストレートで表現することが苦手のようだ。

3について

- ・ 祖父母、両親の間に年代の開きがあり、意見のくい違いが出てくる。

4について

- ・ 物質的に恵まれ過ぎており、我慢する心に欠けている。
- ・ 親が安易に物を与えていた。

5について

- ・ 中・高年齢層の世代の人々が神仏を敬う程度であろう。
- ・ 自然の恵みに対する感謝の念が薄い、自分の祖先崇拜だけにとどまっている。

6について

- ・ どれも大切なことだと思う。特に子供のしつけについては、親自身がしっかりとしていくかなければならない。
- ・ 達成目標についても全く同感だ。特に敬老の精神、公衆道德、男女の交際、余暇の活用、近所の人との人間関係などは大切である。
- ・ 奉仕の精神は特に足利市民として欠けている点であると思うので、真剣に考えていきたい。

カ 教育課題抽出の観点並びにその方法

足利の風土に根ざした地域性のある教育課題を抽出するため、1次調査において家庭を五つの視点から将来を見通したるべき家庭人の姿を浮きぼりにした。また2次調査で意識の高かった項目や低かった項目について市民の実態を明らかにした。さらに深く解明を要する項目については、教育専門家を対象とした面接調査を実施した。その結果を次のような角度から整理して地域教育課題を抽出した。

- A タイプ 市民の意識が高く、実態も充足されている。
- B タイプ 市民の意識は高いが、実態は充足されていない。
- C タイプ 市民の意識は低いが、実態は充足されている。
- D タイプ 市民の意識は低く、実態も充足されていない。
- E タイプ 市民の意識と実態について特に特徴が認められなかったもの。

この場合、本部会としては、B、A、C、D、Eの順に各項目をランクづけすることを原則とした。そして、たとえDあるいはEタイプであっても、家庭人としてあるべき姿にどうしても必要な項目については取り上げたいと考えた。

このようにして抽出した地域教育課題を、教育基本法及び社会教育審議会答申の「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」を基にして作成した一般教育課題の綱目を通して一般性、普遍性を兼ねそなえた「足利市の教育課題」とした。

IV 足利市の教育目標設定の実際

各期における「足利市の教育課題」は次の通りである。

発達期	タイプ	教 育 課 題
乳幼児期 ～ 壮年期	B	○ 人格の基本となる望ましい性格を育てる必要がある。
	B	○ 家庭における性教育について、正しい理解を深めることが必要である。
児童期 ～ 壮年期	B	○ 勤労の意義や尊さを知らせる必要がある。
	B	○ 敬老の精神を身につける必要がある。
幼児期 ～ 高齢期	B	○ 宗教心や自然に対する畏敬の念を育てる必要がある。
	D	○ 家庭内のコミュニケーションを図り、互いに認め合う必要がある。
児童期 ～ 高齢期	B	○ お互いに個人を認め合い、望ましい生活態度を育てる必要がある。
	D	○ 家庭内において奉仕する態度を育成する必要がある。
	B	○ 余暇を有効に過ごす必要がある。
	A	○ 家庭文化を継承し、創造する必要がある。
壮年期	B	○ 資源愛護の精神を養い、物を大切にする態度を育てる必要がある。
	A	○ 子供を育てるための方針、態度を明確にし、一貫した姿勢で対処する必要がある。
高齢期	B	○ 幼児を育てるうえに体験的かつ科学的な健康管理を身につける必要がある。
		○ 高齢者として生きがいのある生活態度を身につける必要がある。

キ 達成目標及び部会が考えた教育目標作成の観点並びにその方法

達成目標を設定するに当たっては、「足利市の教育課題」の内容を明確にする必要があると考え、各教育課題に含まれている価値内容を検討し具体的にした。

この価値内容をふまえ、1次調査、2次調査及び面接調査の結果を参考にしながら「足利市の教育課題」を達成するための具体的な目標として、達成目標を設定した。本部会で作成した達成目標数は次の通りである。

達成目標数一覧 (数字は延べ目標数)

タイプ 発達期	A	B	C	D	E
乳幼児期	1	8	0	0	0
児童期	2	22	0	4	1
青年期	4	21	0	9	3
壮年期	9	31	0	5	1
高齢期	6	10	0	2	3

このような方法で達成目標を設定すると網羅的になるため、それぞれの達成目標を「特に重要」、「かなり重要」、「重要」の3段階に分け、教育目標設定の資料とした。

そして、「足利市の教育課題」とそれをふまえた達成目標について、他部会との関連を図り、相互補完するために四専門部会合同会議をもって達成目標の一部修正をした。

その後、これらのこととふまえ、本部会として乳幼児期から高齢期に至る人生各期の教育目標として12の目標を設定した。

ク 具体策、教育機能連関策定の観点並びにその方法

各専門部会で検討された教育目標、達成目標を整理・統合し、人生各期における足利市の教育目標、達成目標が設定された段階で、本部会として具体策を策定する教育目標が明らかにされた。乳幼児期から高齢期にかけて計26の教育目標である。

そこで、具体策の策定に当たっては、特に教育目標と達成目標の関連から達成目標を達成するための具体策の策定ということで、現在本市で行われている施策の洗い出しを重点にして、今後実施してほしい内容や市民自らが行うものなどの観点から整理した。

教育機能連関については、教育目標を達成するため、中核となる教育の場を明らかにするとともに、それを支える場との機能的なかかわりを検討した。特に家庭が中核となって達成しなければならない教育目標については、学校や地域あるいは、市の行政とのかかわりがどのようにになっているかを十分検討した。

② 研究経過

昭和51年度

回	日 時	内 容
1	11月18日 14:00~16:30 (603会議室)	<p>1 専門部会における研究構想について</p> <p>(1) 研究の内容 専門部会における研究はどこまでの内容を取り上げるかについて協議</p> <p>(2) 調査について 調査の対象、ねらいなどについて協議</p> <ul style="list-style-type: none"> • 市民参加の意義のP R • 目標設定のための資料を得る <p>2 予算について</p>
2	12月14日 14:00~16:30 (601会議室)	<p>1 人生各期の発達課題の吟味について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各期の発達課題の試案を検討し、今後の教育目標設定にかかる調査項目等の資料の一助とする。 <p>(1) 乳幼児期の発達課題（0才～5・6才）</p> <p>(2) 児童期の発達課題（6・7才～11・12才）</p> <p>(3) 青年期の発達課題（12・13才～22・23才）</p> <p>2 主な検討内容について</p> <p>(1) 「人生各期の発達課題」の吟味に使用している資料が翻訳書のため日本人の生活習慣に適応しない文章表現もあり十分配慮する必要がある。</p> <p>(2) 本部会として今後とも共通理解に立つ必要があると思われるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人生各期の区分について検討を要する。 • 家庭人としての概念及び家庭教育と学校教育、社会教育との関連をはっきりさせていく必要がある。
3	1月17日 14:00~16:40 (603会議室)	<p>1 人生各期の発達課題の吟味について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回に引き続いて試案を検討する。 <p>(1) 壮年前期の発達課題（23・24才～42・43才）</p> <p>(2) 壮年後期の発達課題（43・44才～59才まで）</p> <p>(3) 高齢期の発達課題（60才以上）</p> <p>2 今後の課題について</p> <p>(1) 「期待される人間像」について検討</p> <p>(2) 人生各期の発達課題について一応検討がすんだので、各委員</p>

回	日 時	内 容
		が柱としたいものについての協議
4	2月22日 14:00～16:20 (603会議室)	<p>1 人生各期の発達課題のまとめについて</p> <p>(1) 乳幼児期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この期では基本的な生活習慣の学習が中核になる。 ・ この期を大きく3つに分けて考えてみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 母親に依存する時代（家庭生活の上でのしつけ） ・ やや外に向かっていく時代（身近な社会生活のしつけ） ・ その他（両方にまたがるもの） <p>(2) 児童期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭教育という立場から、この期の発達課題をみると基本的な生活習慣の学習が中核になる。 ・ 読・書・算の基礎的技能の習得、社会、自然についての生活に必要な知識・理解の学習は、主として学校教育が担う分野であるが、家庭教育との関連が非常にある。 <p>(3) 壮年期（前後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚生活への適応に関すること。 ・ 職業に就き、経済的に独立すること。 ・ 子供を産み、育てること。 ・ 地域社会の人々との交わりに関すること。 ・ 望ましい家風を確立し、維持すること。 ・ 余暇活動の充実に関すること。 <p>(4) 高齢期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 減退する体力を維持し、健康な生活への適応に関すること。 ・ 可能な限り社会的義務を引き受けること。 <p>※ 青年期は後日にまとめる。</p>
5	3月11日 14:00～16:30 (603会議室)	<p>1 青年期の発達課題について</p> <p>(1) 自我の発見、確認、自己指導に関すること。</p> <p>(2) 結婚と家庭生活への準備に関すること。</p> <p>(3) 自己の身体を受容し、これを効果的に使用すること。</p> <p>(4) 大人、特に親の支配から離れ、自立すること。</p> <p>2 基礎調査項目の分担について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 育児関係、家族構成、父母の職業、かぎっ子、要保護・準要保護、少年の非行、幼稚園、学習塾、足利市の良い点、の9項目について、各委員が分担し検討する。

IV 足利市の教育目標設定の実際

昭和52年度

回	日 時	内 容
1	4月18日 14:00～16:20 (603会議室)	<p>1 河野重男先生への質問事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 先進県について。 (2) 本部会としては、どこに重点をおいたらよいか。 (3) 目標の中に思想、宗教などの家訓を配慮しながら入れていくべきではないか。 <p>2 家庭教育と家庭人としての教育の概念規定について</p> <ul style="list-style-type: none"> (4) 共通、関連問題として <ul style="list-style-type: none"> ○ 宗教心の養成、感謝の心、連帯感、勤労、物を大切にする、社会福祉、性教育、余暇利用 (5) 基礎調査項目の提案について <ul style="list-style-type: none"> ○ 育児関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児検診実施状況、新生児の出生順位、分娩における施設利用状況、乳幼児保育の動向、私立託児施設収容児数 等
2	5月31日 14:00～16:00 (603会議室)	<p>1 アンケート調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 足利市教育目標設定の基礎資料とするため市内小・中学校10校を地域別に抽出し下記の内容について実施した。 (2) 内容 —— 塾について —— <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習塾やけいこごと（ピアノ、珠算、書道など）に通わせている実態 ・ 学習塾に通わせている理由 <p>2 第1次調査の考え方、方法等について</p>
3	6月27日 14:00～16:00 (603会議室)	<p>1 基礎調査項目の提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学習塾の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校以外での学習のようす、学習塾に通わせている理由、 (2) 少年の非行 <ul style="list-style-type: none"> ・ 犯罪少年行為別補導状況、ぐ犯不良行為少年補導状況、過去10年における犯罪発生状況等
4	7月21日 14:00～16:00 (603会議室)	<p>1 基礎調査項目の提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 足利養護老人ホーム (2) 足利市立保育所 (3) 足利市年齢別人口調査
		<p>1 「人生各期の発達課題と望ましい人間像の分析結果によるマトリックス」について（指導者に指導を受ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) マトリックスの縦軸はできるだけ統合すること。

回	日 時	内 容
臨時	8月1日 15:00～17:00 (601会議室)	(2) 横軸は道徳、昭和29年の「足利市教育の一般目標」、期待される人間像を参考にする。 2 河野重男先生より指導を受けた後の話し合いについて (1) ハヴィガースト氏の発達課題の分け方を統合する。 (2) 家族人を子供、親、祖父母の三段階におさえる。 (3) マトリックスの横軸については、知、情、意、体、真善美聖の見方から検討する。
5	8月25日 14:00～16:30 (601会議室)	1 家族人としての教育を、生涯教育を通しての確立について (1) 発達段階のまとめ方、人間像のしづら方 <ul style="list-style-type: none">・ 発達段階のまとめ方については、特に子供の区分について保護する時代と自立する時代があるので2期に分ける。 乳幼児、青少年、親、祖父母の4段階にする。 (2) 人間像のしづら方 <ul style="list-style-type: none">・ 家庭についての概念の明確化 家庭は、年長者、親、青少年を含んでいるとおさえる。核家族をさすのではなく、老人を含む家庭を目標設定の家庭とする。・ 家庭をどう定義づけするか、小委員会で検討する。
6	9月26日 14:00～16:30 (601会議室)	1 小委員会提案内容の検討について (1) 家庭の定義づけについて、小委員会で検討された案を協議した結果、下記の5つの場と考えた。 <ul style="list-style-type: none">・ 家庭は愛の場である。・ 家庭はいこいの場である。・ 家庭は学習の場である。・ 家庭は宗教心を育てる場である。・ 家庭は人間関係を育てる場である。 (2) 調査項目について <ul style="list-style-type: none">・ 小委員会で案をまとめて報告する。
7	10月17日 14:00～16:40 (336会議室)	1 調査項目の検討について <ul style="list-style-type: none">○ 前回検討した家庭の定義を基にして調査項目はどのようにしたらよいかの検討<ul style="list-style-type: none">(1) 意識調査と実態調査の両方まぜてやってみたい。(2) 第1回の調査なので一般傾向をは握るので選択肢の中から選ぶ発問にする。(3) 幼児期の実態も知りたいが、両親の意識調査が主になる。

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
		(4) しつけの設問については意識調査にする。 2 最終的なまとめについて ○ 小委員会で検討する。
8	11月14日 14:00～16:30 (601会議室)	1 調査項目の時期の検討について • 問1～問5 幼・小学生とする。 • 問6～問11 中・高校生とする。 • 問12～問19 両親とする。 • 問20～問24 祖父母とする。 2 調査項目の吟味について ○ 各問とも表現をできるだけやさしくする。
9	12月8日 14:00～16:00 (603会議室)	1 調査項目の吟味について ○ 前回に引き続いて、小委員会で検討されたものについて吟味する。
10	1月17日 14:00～16:30 (201会議室)	1 第1次調査用紙配布に伴う諸準備について ○ 各分担に従って作業を行う。
11	2月17日 14:00～16:30 (201会議室)	1 調査項目の考察についての基礎資料について (1) 意識調査が主であるが実態を推察しながら進めるのか。 (2) 自由表記、地域別、男女別も考察の中に入れるのか。 (3) 考察の観点 • 設問の 集中度か ら、性別、 地域別、 コンピュ ーター以 外の考察、 両親、子 供の観点 のいずれなどから考察をしていく。  家庭人としての教育専門部会 調査項目の考察検討
12	3月13日 14:00～16:00 (603会議室)	1 調査項目の考察について ○ 小委員会で検討した調査項目別の考察について 2 昭和52年度の研究進展状況報告のまとめについて

昭和53年度

回	日 時	内 容
1	4月28日 14:00~15:00 (603会議室)	1 調査項目の考察について ○ 前回に引き続いて調査項目別の考察をする。なお今回では全部検討できないので来月の専門部会にもう一度時間をとる。
2	5月15日 14:10~17:00 (603会議室)	1 調査項目の考察について ○ 前回の残り分、問13~24までの検討
3	6月30日 14:00~16:30 (630会議室)	1 2次調査項目の決定について (1) 1次調査の結果を基に2次調査項目を下記の通り決定。 ・ 家庭の年中行事、性教育、近所付き合い、生きがい、 親子の信頼関係、感謝の気持ち、敬老の精神、子供のしつけ、宗教心、家族ぐるみでの余暇の過ごし方、老人としての生活の在り方、 (2) 昭和29年の教育目標との関連から ・ 「調和のとれた生活」を追加することになった。 (3) 全体的な観点から ・ 「家庭に対する感じ方」を追加することになった。 2 2次調査設問作成について ○ 以上の13項目を小委員が分担し作成する。
4	7月25日 14:00~16:50 (333会議室)	1 2次調査項目の検討について ○ 小委員会で作成した調査項目について ・ 配列について注意する。 ・ 実態調査と意識調査とがあるが、意識調査は後半にもってくる。
5	8月21日 14:00~16:00 (603会議室)	1 2次調査の考察について (1) 下記の三つの要素を加味して、私見を入れずに考察をする。 ・ 1次調査の結果を表記する。 ・ 2次調査の結果を考察する。 ・ 性別、年代別等に分けて考察する。 (2) 地域教育課題を導き出すための資料作成 ・ 2次調査考察後に行う。 2 面接調査の実施について (1) 調査のねらいや対象者の選定 (2) 調査内容と実施時期 などを十分話し合ってから実施する。

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
6	9月26日 14:00～17:00 (331会議室)	<p>1 2次調査項目の考察の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小委員が考察した内容、問61～問71を検討 <p>2 面接調査項目の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2次調査の結果、市民の実態や、もう少し深く知りたい下記の内容について面接調査を実施することになった。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭における性教育について (2) 子供のしつけについて (3) 敬老の精神及び老人問題について (4) 宗教心と感謝の心について (5) 物を大切にする心について
7	10月30日 14:00～17:00 (603会議室)	<p>1 教育目標設定の内容例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1次調査、2次調査を基にして、教育目標あるいは、地域教育課題を抽出し、具体策を導き出していく。 <p>2 地域教育課題を導くための観点からの設問の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小委員会でまとめた観点別分類を基に検討
8	11月30日 14:00～16:30 (603会議室)	<p>1 地域教育課題の抽出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1次調査、2次調査の結果を基に検討
9	12月8日 14:20～16:50 (603会議室)	<p>1 地域教育課題原案の検討について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域教育課題の抽出について <ul style="list-style-type: none"> • 発達段階のおさえ方 • 特に宗教心については、畏敬の念、感謝の心を中心に考える。 <p>2 指導者による指導について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 発達段階に応じた課題の設定が大切である。 (2) 地域教育課題を見直し、一般教育課題抽出の基本にする。
10	1月16日 14:00～17:00 (603会議室)	<p>1 教育課題の検討と修正教育課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域教育課題の見直し→修正教育課題
11	2月8日 14:10～16:30 (603会議室)	<p>1 教育課題及び修正教育課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 修正教育課題に含まれる内容項目の検討 <ul style="list-style-type: none"> • 親の立場のみでなく子供の立場に立っての表現も必要 • A, B, C, D, E のタイプについて
		<p>1 他の専門部会との合同会議について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 市民としての教育専門部会との話し合い

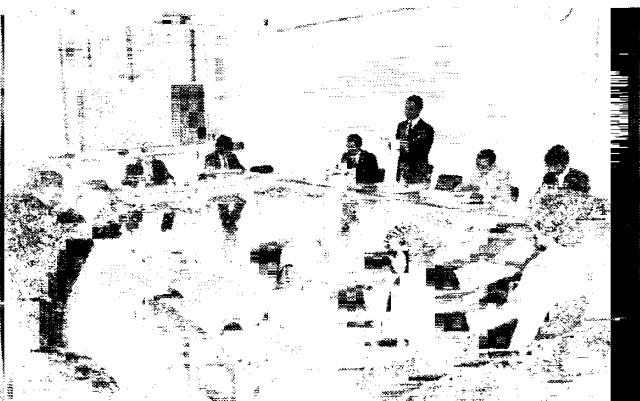
回	日 時	内 容
臨時	2月26日 14:00～17:00 (331会議室) (四専門部会) (合同会議)	<ul style="list-style-type: none"> 老人の問題について……老人の自律的活動を進めたい。 資源保護について……家庭で親の教育が大切である。 <p>(2) 職業人としての教育専門部会との話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の適性に合った職業の選択……企業内教育の強化 趣味、特技、勤労の尊さ……親の職業を理解させること。 <p>(3) 学校教育専門部会との話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育は責任を負い過ぎる。家庭教育の責任は大きい。 宗教心（畏敬の念）を育てることは大切である。 資源を大切にする精神を養う。 性教育は家庭でも必要である。
12	3月9日 14:00～16:30 (603会議室)	<ol style="list-style-type: none"> 1 合同会議における内容審議について <ul style="list-style-type: none"> ○ 本部会としては、他の専門部会から要望のあったものについては、全面的に受け入れて考えていく。 2 達成目標の重要度について <ul style="list-style-type: none"> ○ 「特に重要」、「かなり重要」、「重要」の3段階に分けるに当たっては、市民の反応を参考にしながら部会として決定していく。 3 面接調査について <ul style="list-style-type: none"> ○ 小委員が担当する。
13	3月29日 14:00～16:30 (603会議室)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育目標の設定について <ul style="list-style-type: none"> ○ 小委員会で検討された内容を検討し修正する。

昭和54年度

回	日 時	内 容
1	4月27日 14:00～16:50 (603会議室)	<ol style="list-style-type: none"> 1 中間報告書内容の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族人としての教育専門部会における研究の基本的考え方の検討——家庭を5つの場としてとらえたが、それぞれの場における人間像を話し合い小委員会でまとめる。—— 2 具体策、教育機能連関の作成について <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体策については、目標を達成するために考えられることと、現在足利市において行われている施策の両面から検討する。
臨時	5月25日 14:00～17:00 (331会議室)	<ol style="list-style-type: none"> 1 具体策策定資料の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 小委員がそれぞれ分担して作成した資料について検討

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
2	6月4日 14:00～17:00 (603会議室)	1 具体策策定資料の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の他に考えられるものがあるかどうかの角度から検討し、各目標ごとにいくつかの具体策が出された。 2 家庭人としての人間像の検討について
3	8月24日 14:00～15:30 (603会議室)	1 具体策、教育機能連関策定の構想について <ul style="list-style-type: none"> (1) 具体策については、啓発的な角度というのではなく、自ら行っていく態度というものに置き替していくということで進める。 (2) 四専門部会の目標を統合した形での「足利市の教育目標」の達成目標については、各専門部で作ったものについての具体策を策定していく。
4	9月20日 14:00～16:40 (603会議室)	1 「足利市の教育目標」の達成目標の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現については今後十分検討していく必要がある。 ○ 発達期についても十分検討するものがある。 ○ 教育目標と達成目標のつながりについてはおおむねいいのではないか。 ○ 目標によっては、発達期を検討する必要がある。 ○ 目標によっては、分離する必要がある。
5	10月11日 14:00～17:10 (603会議室)	1 達成目標の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 部会で設定した達成目標が欠落している。 ○ 用語の統一について、例えば自由時間と余暇時間など
6	11月15日 14:00～16:30 (603会議室)	1 教育目標の新設・分離について <ul style="list-style-type: none"> ○ 新設の目標——家庭における性教育について（壮年期） ○ 分離する目標——「自由時間を有効に過ごす。」と「よりよい家風を継承し創造する。」に分離する。 2 達成目標の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現について ○ カットするものや新しくつくるもの
7	12月6日 14:00～16:30 (603会議室)	1 教育目標に対する達成目標の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回に引き続いて達成目標の検討
		1 指導者からの指導について <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体策策定に関すること <ul style="list-style-type: none"> ・「行政自らが達成し、実施しなければならないものが多くなってしまって、行政の責任が重くなるがどうか。」 —2つの面から考えたらどうか。1つは行政が現在施策とし

回	日 時	内 容
8	1月31日 15:00～16:30 (603会議室)	<p>て十分行っているが、市民の積極的参加が得られない場合は市民の立場から書き、市民の要望が強いが施策として未だ不十分の場合は行政の立場から書いていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校や幼稚園、保育所等が取り組むべきことについてはどういう考え方で書いたらよいか。」 <p>——このことについても2つの面が考えられる。1つは学校その他の機関が自らの立場で自主的に実施する場合は市民の立場で、行政機関の指導を受けながら実施していく場合は行政の立場から書いていく。</p> <p>2 達成目標の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全部検討できなかったので、残りについては、小委員が分担し事前に検討しておく。
9	2月19日 14:00～16:30 (市民会館) (7号室)	<p>1 達成目標の検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 残された達成目標について全部検討する。
10	3月4日 14:00～16:30 (603会議室)	<p>1 本部会として強調する教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務局でまとめた教育目標一覧の中から本部会として特に強調したい教育目標の選定 ○ 各委員が本部会で考えた人間像などをふまえて強調したい教育目標をそれぞれ検討する。 <p>2 具体策案の検討について</p>  <p style="text-align: center;">家庭人としての教育専門部会 達成目標の検討</p>

昭和55年度

回	日 時	内 容
		<p>1 目標起草委員会の内容検討について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権尊重の立場から同和教育を何らかの形で教育目標に反映させることについて

IV 足利市の教育目標設定の実際

回	日 時	内 容
1	4月18日 14:00～16:30 (603会議室)	<ul style="list-style-type: none"> • 本部会としては、家庭における人権尊重ということで目標に反映させてほしい。 2 具体策案の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回に引き続いて小委員会で検討した具体策案の検討
2	5月13日 14:00～16:30 (603会議室)	<ul style="list-style-type: none"> 1 他の専門部会で策定した具体策の検討について 2 教育機能連関について <ul style="list-style-type: none"> (1) 教育の役割を明らかにしていく (2) 教育の場を明らかにしていく この2点について今後つめていく
3	6月19日 14:00～16:40 (603会議室)	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育機能連関の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 小委員が分担した内容について検討、残った目標については次回に検討
4	7月4日 14:00～16:30 (603会議室)	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育機能連関の検討について <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回検討できなかった目標についての機能連関の検討
5	11月14日 14:00～16:30 (334会議室)	<ul style="list-style-type: none"> 1 意見書（案）の検討について 2 次年度以降の足利市教育目標具現化構想について 3 本発表会の持ち方について <ul style="list-style-type: none"> ○ 特にP.T.A., 婦人会等一般の方々の参加を呼びかける必要がある。 4 「各専門部会における目標設定の実際について」の原稿内容の検討について <ul style="list-style-type: none"> (1) 本部会としての人間像を強調したい。 (2) 1次調査、2次調査内容については、できるだけわかりやすい表わし方をしてほしい。 (3) 面接調査の内容はもう少し要約した方がいい。 5 12月2日の全体会で協議してほしい議題の提出について